

【令和5年度第2回伊吹山を守る自然再生協議会】

議事録

- 日 時 令和6年3月25日（月）10時00分～12時00分
- 会 場 米原市役所本庁舎3階 3A会議室
- 出席者 別表のとおり

- 議事進行 会長：白井（滋賀県琵琶湖環境部次長）

[凡 例] 会長◆ 委員○ 事務局等●

報告事項

(1) 令和5年度入山協力金事業経過・予算執行報告について（資料1）

- ・令和5年度入山協力金事業経過・予算執行報告について、事務局より説明が行われた。
質疑なし

(2) 令和6年度伊吹山入山協力金事業計画書および予算書について（資料2-1～2-2）

- ・伊吹山入山協力金事業計画についての検討の参考として、(3)伊吹山の保全に係る令和6年度の取組（滋賀県・米原市）を説明したのちに、令和6年度伊吹山入山協力金事業計画書および予算書について、事務局より説明が行われた。
質疑なし

(3) 伊吹山の保全に係る令和6年度の取組（滋賀県・米原市）について（資料3-1～3-6）

- ・伊吹山の保全に係る令和6年度の取組（滋賀県・米原市）について、事務局より説明が行われた。

○（委員）登山道工事の実施時期について教えてほしい。また、登山道が通れないことで、弥高尾根等から登山されている人を見かける。その方々の立入制限を徹底すべきと思うが、対応する予定はあるか。

→（長浜土木事務所）工事の件については、2期に分けて行いたいと思っている。1期工事については、3月末に業者が決まる予定なので、4月は準備と現地調査をして、5月から9月ぐらいまで工事を行う予定である。2期工事については、引き続き9月から始めて12月ぐらいまでに完了させたいという計画を立てている。

→（事務局）登山道について、当然表登山道は止めており、弥高と上平寺の登山ルートにも、登山禁止と張り紙等の規制をしている。上平寺の登山ルートから登山する方が結構いて、弥高と上平寺の登山ルートが合流する中央尾根ルートにそのまま登るケ

ースがあると地元の方から聞いているが、3月に猟友会による鉄砲のシカの駆除を行った関係で、合流地点にも、「中央尾根ルートは、正式な登山ルートではないため登山しないでください。」といった規制看板を設置した。

○（委員）シカの捕獲について、13ページの年度別捕獲数は、令和3年度から令和5年度までで変動がある。それぞれの年度に何基のわなが設置されたかを示したうえで、令和6年度のわなの基数を示すのはどうか。

→（事務局）補足だが、令和4年度までは5合目に設置していないので、登山口から3合目までの林道沿いにおいて、箱わな15基と囲いわな13基による捕獲数で推移している。令和5年度から5合目に新たにドロップネットを設置しており、5合目で100頭程度を捕獲している。よって、捕獲数が増えた分は、ドロップネットによる効果である。

○（委員）これまで不完全ながらも、登山道の復旧に当たってきた。そういったこともあって、今後の登山道の復旧について、施工範囲が非常に広範囲で延長も長いので、長浜土木事務所の事業に支障が出ない範囲で、継続的に登山道の復旧に参加させてもらいたいと考えており、調整いただくようお願いしたい。また、15ページの図で、地元や自然保護団体が自然保護活動を実施すると記載されているが、できれば登山道の復旧についても、地元や自然保護団体の活動として位置付けていただきたい。なぜかという、我々NPOの財源は、2年ほど前にヤママップからこの協議会を通じて、約300万円を支援いただいているが、ヤママップの会員の方からの支援になるため、外向けの発信として、そのような位置づけをお願いしたいと思う。

→（長浜土木事務所）登山道復旧について、ぜひ一緒に取り組んでいきたいと思う。

○（委員）この冬の落石事故について、今後の工事で防げるのかどうか説明いただきたい。

→（事務局）この冬の落石事故については、伊吹山の表登山道ではなく、上平寺区から沢を登った先の上級者が行うアルパイン・クライミングルートでの事故と把握している。

→（委員）表登山道とこの冬の事故のルートは別だから関係ないということではないと思うので、伊吹山全体で落石事故への対応を検討し、工事にあたっては、通行規制等をする必要がある。

○（委員）昨年の土砂災害が忘れられてきているのか分からないが、かなり登山者が増えている。2月24日に落石事故があつてから、長浜土木事務所にも相談をしているが、5月から本格的に登山道復旧工事に入られて、伊吹山上部で霧がかかっている中で、登山者がいると、落石に気付けない。そういった2次災害が発生する可能性もあるので、そこをフォローできるように対策いただきたいと思う。

○（委員）落石事故のあった場所は、崩落とは関係なく、元々岩が転がりやすい場所である。先ほど長浜土木事務所とともに復旧作業を行いたいと意見があつたが、上野区

の議決により、令和6年度は、工事をされる方以外に入山してもらわないと決めて、周知しているので、理解いただきたい。また、伊吹山の保全について、AIによって、どのようにしたら元の伊吹山の姿に戻るのかといった調査をしてはどうか。

→（滋賀県自然環境保全課）AIによるそのような調査は技術的に確立されておらず、現場も日ごとに変わっていくので、施工はその時の状況に合わせて行うことになる。県では、現在測量データの解析をしているところだが、これによって、水みちや窪みの場所等が明らかになるので、上野区とも調整しながら、施工の優先順位を決めて取り組みたいと考えている。

○（委員）昨年の土砂災害から山小屋の経営が厳しい。いつから登山者が通れるのか、もう少し詳しい情報を教えてほしい。

→（長浜土木事務所）今の工事を令和6年度中に完了し、令和7年度春の登山道再開を目標としている。

→（委員）令和7年度春に登山道の規制解除を判断されるときは、上野区に文書で通知してもらいたい。

（4）各団体の諸活動について（資料4-1～4-3）

・伊吹山もりびとの会より活動の説明が行われた。

質疑なし

・伊吹山ネイチャーネットワークより活動の説明が行われた。

○（委員）チチブリンドウとホソバナツルリンドウは、伊吹山の中でも特に絶滅の可能性が高い。伊吹山ドライブウェイの谷側は、チチブリンドウとホソバナツルリンドウの保護区とすると協議会で決めた経緯がある。しかし、残念ながら、その後は、保護区が守られていない状況が続き、個体数が減った。これは懸案として、協議会で今後も考えていくべき問題と思っている。

→（伊吹山ネイチャーネットワーク）実は、チチブリンドウは、谷側の崖ぎりぎりに生息しているが、ここはイヌワシの観察者にとって危険な場所でもあるので、観察者の安全の確保とチチブリンドウの保護を兼ねて、崖の手前に柵を設置してはどうかと思う。

→（委員）踏み跡植生となったことが絶滅の大きな原因と思うが、仮に踏み込みがなくなれば、一定数増えてくると理解してよいか。

→（伊吹山ネイチャーネットワーク）シカによる裸地化も防がないといけないと思っている。

→（委員）崖の手前に柵を設置される場合は、スケジュールを教えてください。

→（事務局）今後調整していきたい。

- ・ユウスゲと貴重植物を守り育てる会より活動の説明が行われた。
質疑なし

(5) 岐阜県における伊吹山の生態系回復への取り組みについて(資料5)

- ・岐阜県における伊吹山の生態系回復への取り組みについて、岐阜県環境生活政策課より説明が行われた。
質疑なし

(6) 2024年度植生復元および樹林化を目的とした試験について(資料6)

- ・2024年度植生復元および樹林化を目的とした試験について、滋賀鋳産株式会社より説明が行われた。

○(委員) カラマツは、鋳山跡のような土壌の植栽基盤が少ないところでは厳しいのではないかと。また、カラマツは、ここの元々の自然植生ではないので、将来的に広葉樹に戻すという前提で植えるということであれば良いが、域外の植生を使って緑化していると自覚しておく必要はあるかと思う。

→(滋賀鋳産株式会社) カラマツを選んだ理由は、鋳山開発前がカラマツ林であったことによる。ただし、シカに対して、どのような効果があるかを今回の試験で考えていきたい。

○(委員) 将来的には、樹林化を目指していると思うが、この樹種では、樹林化とはいえないと思う。ここは、1,000mを超えているので、基本的にはブナ帯になる。土壌が豊かであれば、ブナ林やミズナラ林が本来の姿であるが、石灰岩地帯であり、非常に水分条件が悪いため、どこに着地点を持つていくかが非常に難しい。一度に樹林化を目指すのではなく、ある程度の基盤を作り、落葉の腐食を増やしてから、将来的にブナに近い森を作っていくことが本来の目指すところである。できたら、その方向を踏まえた樹種の選定が必要である。最初は、乾燥に強い植物にしてはどうかと思う。カラマツは、滋賀県の自然地に馴染んでいないところがある。

○(委員) ミツマタは不嗜好性として選ばれているかと思うが、ここの土壌には、どうかと思う。また、最初にカラマツを資源として投じる価値はないかと思う。地域性系統と記載があるが、伊吹山産の苗から種類を多く選んで、試験ができれば良いものが見つかるのではないかと。

→(滋賀鋳産株式会社) 地域性系統として、伊吹山産の苗を探しても、生産されている方がいないため、種を取ることから始まる。まずは、小面積でシカがどの程度来ているのか試験をして、次のアプローチとして、地域性系統を検討していきたい。

→(委員) 非常に良い取組をされているが、苗木生産から始めるのはとても難しい。3年生ぐらいの小さな苗を植えないと活着しない。方法はまだ確立されていないので、綿密に試行していく必要がある。

- （委員）ツリーシェルターは、きちんと管理してもらいたい。飛んで行って谷底に溜まっているところをいろいろな場所で見ている。
- （委員）今回は試験なので、恒久的にするものではないと思うが、この結果によって樹種を選んでもらえればと思う。

その他

- （委員）各種団体が伊吹山で作業をしていただいているが、上野区の規約で入山許可書を出していただいているが、今後は、入山許可書の添付資料に損害賠償保険や団体活動保険の写しの提出をお願いする。
- （委員）国定公園の管理という点でも、イヌワシの観察者をどうするかがとても重要と思うので、長期的な話し合いを持って、保全と利用の調整を図る方法を考えていくべきではないかと思う。